

Lab News

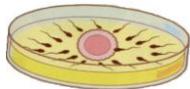
テーマ “不妊治療と臨床検査 II”

エンブリオロジスト

当院では不妊治療に3名のエンブリオロジスト(胚培養士)が携わっています。エンブリオロジストになるための国家資格はありませんが、2つの学会で認定制度を設けています。当院の培養士は日本臨床エンブリオロジスト学会の臨床エンブリオロジストの認定資格を有しています。

エンブリオロジストとは、胚、胎生、発生学(embryologe)を対象とする技術者(embryologist)を指しています。今回は、体外受精時のエンブリオロジストの仕事内容について説明します。

Day0 受精操作



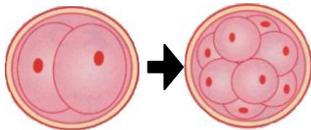
採卵された卵子は血球などを取り除き、培養液の入ったシャーレに移します。採取された精子は洗浄し、元気のよい運動精子のみを集めます。シャーレ上に卵子と精子を混合し、インキュベーターに入れ培養します。

Day1 受精の確認



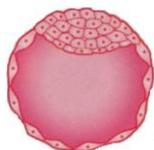
受精が無事に完了した場合は、第二極体と雌雄の前核が見られます。我々は胚の状態を確認し、培養液の交換を行います。

Day2~4 胚培養



胚はその後2つに分割します。そして4細胞、8細胞、16細胞と細胞数を増やしながら成長します。毎日胚を観察し、2日おきに培養液を交換します。

Day5 胚盤胞移植



受精後5日目になると、胚盤胞になります。胚盤胞は、将来“赤ちゃん”になる内細胞塊と将来“胎盤”になる栄養膜細胞に分かれています。カテーテルに胚盤胞を入れ、子宮内に移植します。

<エンブリオロジストのまとめ>

- 1) エンブリオロジストは、配偶子や受精卵、精子を専門に扱う技術者です。
- 2) エンブリオロジストは、卵子と精子をシャーレ上で受精させ、受精胚を培養し、子宮内に戻す操作において医師とともに関わっています。